

令和7年度

第1回岐阜県スマート農業推進協議会

議事要旨

開催日時：令和7年8月18日

開催場所：岐阜県庁舎 19階 会議室

## 令和7年度 第1回岐阜県スマート農業推進協議会 議事要旨

1 開催日時：令和7年8月18日（月） 10：35～11：35

2 開催場所：岐阜県庁 19階会議室

3 出席者：別添「出席者名簿」のとおり

### 4 内容

#### (1) 令和7年度のスマート農業の取組

<事務局から説明>

##### 【主な質疑・意見等】

山口委員 高性能田植え機の高性能とはどういう機能か。

(事務局) 直進アシスト機能や可変施肥機能である。

山口委員 圃場1枚単位での可変施肥について、可変施肥田植機やドローンによる可変施肥については費用対効果が出ないという論文がある。そのため、圃場単位で施肥量を調整し、ドローンで一気に施用する技術を検討できると良い。

松下委員 環境モニタリング機器の導入数が令和5年度から令和6年度にかけて減少してる理由は。

(事務局) 国の補助事業の終了に伴い、利用を終了したと聞いている。

松下委員 導入数は補助事業で導入された数と自己資金のみで導入された数と分けた方が良い。

嶋津委員 環境モニタリング機器の減少については、効果が無かったのか、生産者が使いこなせなかったのか分析が必要。  
土地利用型作物におけるスマート農業機器の導入が伸びている理由は。

(事務局) 導入理由は様々だが、一例として、ある集落営農組織が若い方に機械作業をお願いしたいから導入したという話がある。

嶋津委員 鳥獣害対策におけるスマート農業機器とはどういうものか。

(事務局) 捕獲の通知システムの導入が多い。

## (2) 新たな農政の基本計画におけるスマート農業の取組について

<事務局から説明>

### 【主な質疑・意見等】

嶋津委員 多様な担い手が小区画農地を利用することとしているが、具体的に何人で何 ha を見込んでいるか。

(事務局) 具体的な数値については、まだ検討していない。

嶋津委員 多様な担い手とはどのような担い手を想定しているのか。また、どのような機器の導入が想定されているか。

(事務局) 農業未経験者を想定。スマートグラス上に AR (拡張現実) を表示し、農作業をアシストするサービスや、技術が追いつけば AI による農作業のアシストアプリ等があると良いと考えている。

山口委員 温暖化の影響で、今後はうまい米とまずい米の格差が広がるため、平地は大規模で省力化、逆に山間部は精密農業を行い美味しい米生産でブランド化する等、作付け地域で水稻の栽培方針を変えるべき。

松下委員 多様な担い手は、農業への関わり方・考え方が異なる。スマート農業機器もそれに即したものを提案すべき。そのためには小規模でどういう機械を導入して農業生産しているか、事例集めが必要。

小竹委員 農地の維持のためには、行政や J A がほ場の作付け状況を一元的に把握・管理できるシステムが必要。

林委員 新しい方が入ってきたとして、地域との関わりを持たざるをえない。地域の話し合いへの参加、草刈をはじめとした圃場の維持管理方法など、ルール決めが重要。新しい人が入っても継続できる仕組みが必要。

農林水産省が地域での作成を進めるみどりビジョン (= 農地の保全体制を明確化したもの) を活用しても良い。

棚橋委員 工業の D X は伴走型支援が有効と言われている。農業はすでに普及指導員が技術指導しているので、あとは普及指導員がデータを読み解く力があれば、伴走型支援となると考える。

若い方の考え方を取り入れると農業は変わっていくと思う。うまいジャパンは面白い売り方している。

都市部に小区画の農地がある地域があるので、ここをどう機械化していくのかも重要だと考える。

(3) スマート農業推進協議会の委員の任期について

<事務局から説明>

【主な質疑・意見等】

質疑・意見なし。